

講義名	ベンチャービジネス論					授業形態	
担当教員	井上 芳郎	開講期・曜日・時限		前期 金曜日 4時限			
		単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

我が国の経済が活性化し繁栄し続けるためにはベンチャービジネスの出現や企業のイノベーションが重要である。この授業では豊かな経済を作り出す組織について学びたいと思っています。合わせて、我が国の経済発展の過程を俯瞰しながら、ベンチャービジネスの存在意義とベンチャー企業に関する経済活動の推移を考察します。

この授業は、多くの大学で開講されている科目です。よって、特定の学部、学科、コースのディプロマ・ポリシーと結びつけて表現することはありません。ただし、鍵となるのは以下の概念になります。

- 1. 経済の活性化、繁栄には、ベンチャービジネスの出現、企業のイノベーションが不可欠。
- 2. 企業の主体となるのは、いまだに存在する様々な組織（企業、官公庁、行政機関）である。
- 3. 企業は、市場に直面し、競争の激しい環境の中で、顧客のニーズを的確に把握し、それを満たす商品やサービスを創出する。
- 4. 以上を総合して理解していることが、この授業の主題であり重要である。

到達目標

ベンチャービジネスに関する基本的な知識、またベンチャービジネスおよび企業経営に関する基本的な知識を理解することを目標とします。合わせて、将来起業したいという学生のために、起業の実現と発展のためのポイント、教科書を使用しながら学んでもらうことも目標です。加えて、ベンチャービジネスは国の経済発展において大きな役割を担うことが期待されているので、その役割を理解するとともに、経済政策から展開される施策について活用する力を理解することも目標です。

以上を皆さんの立場から「〇〇することができるようになる」という形で表現すると以下のようにになります。繰り返して恐縮ですが、しっかり確認の上で履修登録してください。

- ①ベンチャービジネスに関する基本的な知識、またベンチャービジネスおよび企業経営に関する基本的な知識を理解することができるようになる。
②将来起業したいという学生が、起業の現状と発展のポテンシャルを、教科書を使用しながら学ぶことができる。
ベンチャービジネス間の経済効果において大企業を担うことの期待されていますので、その役割を理解するとともに、経済政策から展開される施策をいかに活用するかを理解することができる。

以上、しっかり確認してください。

提出課題

web等を通じての「クイズ」は、ほぼ毎回行います。それらはすべて評価に反映されます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出課題については、授業の中で紹介していきます。授業においてレポートの内容などを紹介する場合、原則として個人名を出すことはしません。

評価の基準

1. 授業への参加状況（出席がすべてではありません）／30％
2. 日常的な課題（レポート、クイズ）に対する評価／40％
3. 期末試験（レポートの場合もあり）／30％

なお、社会情勢の変化によって、評価項目の内容、また評価項目ごとの割合を変更することがあります。その場合は授業及び講義連絡で周知します。

履修にあたっての注意・助言他

ベンチャービジネスや企業経営にかかわるニュースに関心を持って生活をしてください。また、そのようなニュースに、授業で学んだことと当てはまる習慣をつけてください。

具体的には、新聞や雑誌を通じて、ダイナミックな世界をうかがっている生活をつくり、その企業がどのように経営を行っているかを徹底的に観察するようにして下さい。さらに求めると、その企業の歴史（企業の経緯、発展の経緯、取扱商品やサービスの種類、市場展開の推移など）を調べてみるのもよいでしょう。企業の現在は過去の延長線上にあります。現状と過去を結ぶことで企業活動により良く理解することができます。手法もベンチャー企業だけではなく、色んな企業の調査にも活用されるはずです。

教科書

起業の科学／スタートアップサイエンス。	田所雅之	日経BP	2300＋税	9794822259754

参考図書

・リーマン・スタートアップ。	エリック・リース	日経BP	1800	9794822248970

その他

*授業で使用する資料がある場合は講義連絡を通じてポータルにアップしますので、各自で対応してください。
*教科書である「起業の科学」は第一回目の授業から使用しますので、必ず購入して下さい。

授業計画

1. 産業の発展と社会の発展、経済発展を認識
2. 産業の発展と歴史的背景、経済政策の役割① + 「産業の科学」 輪読
3. 産業の発展と歴史的背景、経済政策の役割② + 「産業の科学」 輪読
4. ペンチャー・ビジネスと「産業の科学」 輪読
5. ペンチャー・ビジネスと「産業の科学」 輪読
6. ペンチャー・ビジネスとイノベーション① + 「産業の科学」 輪読
7. ペンチャー・ビジネスとイノベーション② + 「産業の科学」 輪読
8. 中国の振興の道
9. ペンチャー・ビジネスを理解するための経営管理論① + 「産業の科学」 輪読
10. ペンチャー・ビジネスを理解するための経営管理論② + 「産業の科学」 輪読
11. ペンチャー・ビジネスを理解するための経営管理論③ + 「産業の科学」 輪読
12. ペンチャー・ビジネスとヒューマンパス① + 「産業の科学」 輪読
13. ペンチャー・ビジネスとヒューマンパス② + 「産業の科学」 輪読
14. ペンチャー・ビジネスとヒューマンパス③ + 「産業の科学」 輪読
15. まとめ議論

＜社会情勢及び授業の進捗によって、一分内容の変更を行う場合があります＞

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実演、フィールドワーク
キ：その他（A～E型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

として、配布する資料は教科書などにも行っていない。復習で理解を自分のものとするために、レジメには授業内容で覚えたことを自分の言葉で書き込んでおくことが重要だ。特に理論面の講義は他の授業との関連が深いので、他の授業で学んだレジメと併せて教科書、本で取得する参考文献を積極的に活用して理解をよりよくなすことがよい。最も好ましいのは、ノートをとることだ。

後者は、授業内容を書き込んだレジメ及び教科書などにも行っていない。また、本授業と実際のビジネスの関わりはとても深いものである。新聞やテレビのニュースを見ながら、本授業の知識を思い出して活用するようになっている。

おおよその予習・復習時間として、予習2時間、復習2時間です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業は商学部・経営学科の「起業・事業承継コース」と関連が深い科目です。当該コースのディプロマ・ポリシーである、①企業経営の仕組みや組織行動について、経営理論に基づき、自ら考え、理解できる②2
変わりゆく経営環境の動きに強い関心を持ち、③企業組織の中でリーダーシップをとって具体的な改善や解決の提案ができる、あるいは自らが事業を創出できる、この3つを目標にしています。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レポートや課題に対しては、原則としてwebを使用します。ただし、期末レポートを課す場合の提出方法は、別途告知します。

実務経験の有無及び活用

大学卒業後は、製薬会社、機械工具製造会社で勤務する中で経営学に対する興味を持ち、いまから三十数年前に、経済産業大臣が認定する「中小企業診断士」という資格を取得しました。その後経営コンサルティング会社に転職し、主として中小企業の経営コンサルティング業務に従事しました。そのなかで、社会人大学院でも学びました。
2002年に本学教員となりました。

備考

ありません。